

平成 21 年 8 月 6 日

各 位

会社名 関西汽船株式会社
代表者名 代表取締役社長 黒石 眞
コード番号 9152
上場取引所 東証 2 部 大証 2 部
お問合せ先 執行役員 三澤 豊
電話 (06)6574 - 9131

当社の親会社 株式会社 商船三井
代表者名 代表取締役 社長執行役員
芦田 昭充
コード番号 9104
上場取引所 東証一部 他

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 5 月 14 日に公表しました平成 21 年 12 月期 第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円，%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1 株当たり 四半期純利益 |
|--|-------|------|------|--------|------------------|
| 前回発表予想(A) | 4,700 | 400 | 410 | 410 | 円 銭 5 98 |
| 今回修正予想(B) | 4,350 | 790 | 810 | 810 | 15 52 |
| 増減額(B - A) | 350 | 390 | 400 | 400 | |
| 増減率(%) | 7.4 | | | | |
| (ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期) | 5,636 | 692 | 723 | 241 | 6 12 |

2.平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(単位：百万円，%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------------------|--------|------|------|-------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 10,000 | 100 | 70 | 60 | 円 銭 0 87 |
| 今回修正予想(B) | 9,700 | 700 | 770 | 760 | 12 58 |
| 増減額(B-A) | 300 | 800 | 840 | 820 | |
| 増減率(%) | 3.0 | | | | |
| (ご参考) 前期実績(平成20年12月期) | 11,677 | 719 | 778 | 286 | 7 26 |

3.平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

(単位：百万円，%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|------------------------------------|-------|------|------|--------|-----------------|
| 前回発表予想(A) | 4,100 | 400 | 420 | 424 | 円 銭 6 19 |
| 今回修正予想(B) | 3,780 | 788 | 774 | 777 | 14 89 |
| 増減額(B-A) | 320 | 388 | 354 | 353 | |
| 増減率(%) | 7.8 | | | | |
| (ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期) | 4,985 | 676 | 690 | 190 | 4 82 |

4.平成21年12月通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(単位：百万円，%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------------------|--------|------|------|-------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 8,700 | 100 | 70 | 60 | 円 銭 0 88 |
| 今回修正予想(B) | 8,600 | 700 | 720 | 720 | 11 91 |
| 増減額(B-A) | 100 | 800 | 790 | 780 | |
| 増減率(%) | 1.1 | | | | |
| (ご参考) 前期実績(平成20年12月期) | 10,321 | 669 | 668 | 176 | 4 46 |

5. 修正の理由

【連結業績】

連結業績につきましては、個別業績の変動による影響が大きく反映されるとともに、旅客利用者減少による船内レストラン・売店の売上減少等による子会社業績の悪化もあり、売上高ならびに各利益数値とも前回発表予想から下方修正しております。

【個別業績】

昨年来の景気後退によりやく底打ちの兆しが見えてきたものの、回復の歩みは遅々とし、前回の修正発表時に予想していたほどには貨物量や旅客数の回復がみられませんでした。本年3月末には乗用車を対象とした高速道路料金的大幅割引制度が導入され、乗用車客を中心に深刻なフェリー離れをもたらしました。加えて本年4月後半に関西地区を中心として発生した新型インフルエンザの影響で団体旅行客を中心に利用客数が落ち込むなど、当社を取り巻く経営環境には一層厳しいものがありました。

本状況下、当社では、高速道路利用料金との格差を縮めるべくマイカープラン等の新商品販売や運賃価格の見直しを行うなど利用客誘致に努める一方、本年6月からは中九州寄港便航路改編を実施するなど損益改善策を講じてまいりましたが、残念ながら十分な成果が上らず、前回発表予想から下方修正しております。

利用客が増加する年度後半に向けて一層の損益改善を図っていく所存ですが、年度を通じて売上高の減少が大きく、営業利益、経常利益ともに前回予想を下回る見込みです。

以上